

「楽屋―流れざるものはやがてなつかしき―」

作…清水邦夫 上演台本…永妻晃

女優 A いのはら京子

女優 B 松本美穂

女優 D 奈緒 G

Bits
1

女優 A は頭に包帯を巻き、女優 B は首に包帯を巻いている。

あたしは……かもめ。

女優 A
女優 B いいえ、そうじゃない、あたしは、女優。そ、そうよ！

女優 A 今の女優、見た？

女優 B ええ、この小屋で 10 日も公演してるのに客席はがらがら。

女優 A 当り前よあの演技じゃ。

女優 B それに、「かもめ」のニーナやる年じゃないよ。

女優 A 五十よ。よくもニーナ役を……ね。

女優 B それにしても、下品な帽子をかぶってたわね。もっとエレガントを被ったものだわ、あたしたちがやった頃は。

女優 A あたしたちがやった頃？

女優 B そうよ。

女優 A へえ。

女優 B なにが「へえ」よ。

女優 A まるで『かもめ』のニーナをやったような口ぶりじゃない。

女優 B (傷ついて) 前にも言っただろ、一度だけチャンスがあったんだよ。
よ。

女優 A 一度だけ？

女優 B そういうあんたはどうなのさ。かもめどころか、ホシムクドリ役のチャンスだってなかったんだろ。あんたいつも口癖のように言ってたじゃないか。「ああ、あたしは永遠の俳優の裏方、俳優

女優A
がセリフを忘れた時に教えるプロンプターだった”って……。
ふん、今のお言葉、そっくりそのままお返しするよ。なんだい、
バカにしゃがって、あんたみたいに、あることないことべらべ
らおしゃべりはしないけど、あたしにだってチャンスはあつた
んだ、マクベス夫人の役。

女優B
へえ、シェイクスピアのマクベス夫人……。

女優A
そうよ、あれは旅公演の途中だった。確か瀬戸内海のどこかの
町……マクベス夫人がさ、朝ままかりを食いすぎちゃって、突
然ん下痢なの、凄いのなんのつたって、昼ごろにはもう危篤状
態。

女優B
なるほど、当然あんたにチャンスがまわってきた。

女優A
あたしは、お守りにしていた笠間神社のお札を出して祈ったわ、
早く死ね！ 早くくたばれ！

女優B
ところが夕方になると敵は奇跡的にもちなおした。

女優A
ところがそうじゃないの。

女優B
そうじゃない!?

女優A
ええ、夕方になると、今度はあたしが猛烈な下痢……。

女優B
あんたも、まま、かり？

女優A
(うなずく) 避けられない運命だったのよ。だって、瀬戸内海
へ行けば、誰だってままかりを食べるんだから。

女優B
きつとあたしもダメね、避けられない運命を避けられたことが
ないのよオ。

女優A
そうよ、ままかりって、とっても美味しいんだから。

女優B
……マクベス夫人か……あんたはいいよ、一度でもチャンスがあ
つたんだから。あたしはなかった。マクベスの公演には、五十回
以上もプロンプターやったんだもの。

女優A
じゃ、セリフは全部覚えている？

女優B おぼえてるわよ……（マクベス夫人のセリフ）『鳥の声もしわがれ、ダンカンが私の城へ運命の到来するのを告げようとしている。さあ、死をたくらむ悪魔たち、この私を女でなくしておくれ、頭のとっぺんから爪先まで残忍な気持ちで満たし、血をこころせ、優しい思いやりがその決意の邪魔をしないように』。

女優A ちよっと待ってよ。

女優B なに、せっかく人がいい気持ちでやってるのに。

女優A ねえ、それ、戦後の翻訳？

女優B 「戦後」!?

女優A 違うんだよ、あたしの覚えているのと。

女優B どこがよ？

女優A どこって、頭っから。

女優A、ポーズをとる。それもどこか懐かしい。

女優A おおがらす大鴉の声もしわがれて、私のこの城へダンカン王の不祥の臨幸 りんこうを啼き知らせる……。

女優B 不祥の臨幸!?

女優A さあ、お前たち、しぎやく弑逆の企みに伴う霊魔ども、来たりて私を女でなくしておくれ、頭から足の爪先まで、どうもう獐猛な残忍な心で一杯にしておくれ！この血を凍らして、自然にそなわる憐みの情が ほっぼつ思わず勃発して……』。

女優B 「勃発」!?

女優A、やめてしまおう。

女優B 続けてよ、ねえ。

女優A どうせあたしは古いんだよ。あんたより随分年齢としくってるし……
なんたって、憐れみの情が思わず「勃発する時代」だからねえ。
（慰めるように）「勃発」だって、それとなく意味は通じるわよ。

女優A それとなく？

女優B まあ、こまやかさには若干欠けるけど。

女優A どうせあたしは、こまやかさに欠けるんだよ、だから、永遠の
プロンプターだったんだ。

女優B すぐこれなんだから。

女優A 扱いにくいと思ってんだろ、戦前の人間は。

女優B あんた、永遠のプロンプターなんていうけど、時々は舞台に立
ったんだろ、マクベス夫人とか、ニーナとまではいかなくても。

女優A そりゃもちろん……貴族Aとか伝令2とか門番3とか。

女優B あら、男ばっかし。

女優A そうなのよ、なぜか男ばかり……戦争に男優はとられて不足し
ていたからねえ。そうだ、マクベスだって、少年の役で何度か出
たわ。

女優B 少年の役？ どんなセリフがあった？

女優A ……（いおうとするがやめる）

女優B どうしたのさ。

女優A だって、訳が古いから。

女優B いいじゃないの。

Bits 3

女優A そういえば ぼくと 博徒の役でも出たわ。

女優B 博徒ってやくざ？

女優A そう。三好十郎作、「斬られの仙太」。もちろん、仙太じゃない
わよ。

女優B 日本の戯曲じゃない、訳はカンケイないよ。（うながす）

女優A だって……（突然、孫の手を刀に見たてて、後ろにまわす）『ま
っぴらごめんねえ、一天四海、分業渡世に無え作法だ。無えのを
ね

承知でお騒がせしましたこのおいら、逃げも隠れもするこっちゃ
ござんせんがとわいてい、今夜のところあ、逃がしてもらいて
えのだ。逃げてえのだ。へい、貸元衆！ お前さんの前では口

はばってえいい草だが、おいら人を斬るのはきれえだ。斬れもしねえ』。

女優 B

おお、かつこいい、それがあんたのセリフ？

女優 A

『いえね』、こいつは仙太のセリフ……『ねえ、聞いて下すつているかね、貸元衆、おりやあごらんの通り名も戒名もねえ渡り鳥、ホンの昨日今日駆け出しの三手下です、へい。しかし、筑波を荒らしたのが三手下にしる渡世人のはしくれだったと、あとで世間に聞こえてみなさんのお顔にかかる心配がありや、盗ぬすつ人にして下すつても結構でがんす。おりやア盗ぬすつ人でえ、へい、盗つ人だ。その盗つ人も……これだけの金、うぬが栄耀栄華えいようえいがに使おうというんじゃねえ、何十という人の命が助かるのだ！』

女優 B

ねえ、いつ出てくるの、あんた。

Bits 4

女優 A

うるさいわねえ、もうちよつとよ……『お願えだ、貸元衆、今夜のところは、お見逃しおたのん申してえ。仕事をすませりや、えり垢あ洗って出直してまいります。おたのん申します。同じがしまく無職の人間が口を聞いていると思やあ腹も立とうが、そうじゃねえ、百姓の子が火のつく様に泣いているのだ……みなさん衆の荒みあがり、そのホン一晚のところ、あつしに下すつたと思わねえで、その奴等に恵んでやったと思つて、今日の所あお見逃し下せいで、貸元衆、真壁村の仙太郎、恩に着ますでござんす……へい、待ちねえ（周囲に殺気に目を配る）おいら斬りたくねえ、殺生はしたくねえのだ、きこえねえのか！』と、そこへ下妻の滝次郎、ぱつと飛び出てくる。……」

女優 B

ねえ。

女優 A

『やかましいやい！ 仙太郎！ 口が縦に裂けやがったか！ 殺したくねえと？ なけりやこつちで殺してやらあ、それ、ぶつた斬ってしまえ！』

女優B それがあんた？

女優A 違うわよ。

女優B じゃ、まだ？

女優A もう登場してるわよ。

女優B え、どこに？

女優A この辺へんにいるのよ。

女優B この辺？

女優A そう、この辺……この後、下妻の滝次郎と一緒にとび出して来るのよ。ト書きでいえば、滝次郎、ぱっと飛び出す。と同時に博徒七人抜連れてザザッと飛び出してくる。みんな歯を喰いしばっていて無言である。

女優B 「無言」!?

女優A そう、みんな歯を喰いしばって……でもあたし、仙太や滝次郎にもプロンプつけなくちゃならないのよ、だから、ト書き通りにはいかなかったわ。

女優B そりゃそうねえ。(歯を喰いしばって) こうやって、プロンプはつけにくいものねえ。

女優A (夢みるように) けど、あの芝居は好きだった……お薦つたとかお妙とか素敵な女の役もあったけど、やっぱりグツときたのは斬られ

の仙太……。

女優B (瞠みめる) あんた、まさか。

女優A まさか、なによ。

女優B そのメイク。

女優A メイクがどうかした？

女優B あたしには、ずっと謎だったのよオ。

女優A だから、なにが。

女優B あんたの永遠の役。

女優A それで？

女優B 斬られの仙太？

女優A よしてよ、あたしこれでも女優だよ、やっぱり女の役がいいよそういうあんたの永遠の役は？

女優B 秘密。

女優A ふん、あたしにはわかってんだ。

女優B いいえ、わかるもんか。

Bits 5

女優A ニーナよ、「かもめ」、凶星だろ。

女優B 凶星なもんか、違ったら。

女優A ニーナ！ わがいとしのニーナ……わたしはトリゴーリンです。

女優B 「トリゴーリン」!?

女優A 「ええ、あなたを心から愛し、いとおしく思っているトリゴーリンです」

女優B やめてよ、気持ちわりい。男役なら仙太の方がずっといいわよ。

女優A やんなさいよ、ほら！

女優B ……『ああ、すてきな湖……このすてきな木立……すてきな大空』

女優A その調子……でもそんなセリフがあった？

女優B いいから、好きなどだけやるんだから『……すてきな湖、す

てきな木立、すてきな大空……あたし、このほとりに立つと、い

つも自然の大きさ、豊かさというものをしみじみと感^{かん}じるんです。

でも、あたし、女優になれるんなら、女優になるためなら、この

自然でもどんなものでも敢然^{かんぜん}と犠牲にするわ……名声を……』。

女優A 名声を。

女優B 『ええ、『割れ返るような名声を』。

女優A 『割れ返るような名声を』。

女優B 『湖の向こうに、家が見えるでしょう。あれが亡くなった母の屋

敷です。わたしはあそこで生まれたのそれからずっと湖のそばで

暮らしているの……』。「バサッ」。

女優A 「バサッ」って？

女優B 『かもめよ、トレープレフさんが射ったの』。

女優A 『きれいな鳥だ』。(なにか書くマネ)

女優B 『なにを書いてらっしやるの？』。

Bits 6

女優A 『題材が浮かんだもので、そう、湖のほとりに幸福で自由なかもめのような娘が住んでいた。ところがふとやって来た男が、その娘を見て、退屈まぎれに娘を破滅させてしまう……』。

女優B 『まあ』

女優A 『どうです、いい話でしょう。それにあなたのような若い女優さんには、ありがちな話だ……』(冷笑を浮かべ)おや、ニーナその首の包帯はどうしたの？ 男のため命を断とう何て女優最低。女優のために、男が何人の死のうと、それはその女優のかがやかしい勲章だけど……逆はだめ、女優としては一番最低の行為ですぞ。ふん、黙ってきいてりや勝手なごたく並べちゃって、どうせあたしは女優失格なんだよオ！ そりゃあんたはいいさ。あんたのその傷は、時代つてものがけばばしく飾りたててくれるもんねえ……戦争か。兵器工場、女子挺身隊、空襲……なにせ世間さまは、戦争の傷あとには、結構甘い感傷をもってらっしやるからね。

女優A (斬られの千太よろしく、凄んで)ちよつと、何をいいたいんだい。

女優B ま、すごんじやって。

女優A いいたいことがあるなら、はっきりいいなさいよ。

女優B 別に……ただあたしは、爆弾にやられた傷と庖丁の傷と、どっちがとくか、よく考えてみようと思っただけさ。

女優A ふん、そういうもつてまわった言い方が、戦後のリアリズムかい。

女優B　へえ、そういう陰気な迫り方が戦前のリアリズム？

女優A　うるさいわねえ、どぶねずみ！

女優B　なにさ、とげねずみ！

たがいに、化粧台の上のものを投げ合う。次の瞬間、相手を無視して、それぞれのメイクに励む。

長い間。

それぞれのメイクがうまくいかなくて、前後して、カンシヤクをおこす。

長い間。

女優A　ねえ。

女優B　……。

女優A　あたしって、つまらないことにこだわるたち性質なんだけど……

……とげねずみってなあーに。

女優B　とげねずみはとげねずみよ。

女優A　そんなの、いるの？

女優B　いるの？ あんたって、いつだってそういうトゲのあるきき方をしてあたしを傷つけるんだから……いますよ、実在するわよ、奄美大島に。

奄美大島に。

女優A　どんな所にいるの？

女優B　イモ畑。

女優A　「イモ畑」!?　ほー……。

「宇宙人の証明」

作…井上夢人　上演台本…永妻晃

A　京子

B　美穂

Bits
7

A　ああ、そうだ……話変わるけどさ、あんた私に隠し事してんだろ。

- B 何よ、何をよ。
- A わかるんだ、わかるんだ。
- B 気持ち悪いな。
- A 言っちゃいな、言っちゃいな。スッキリするよ。
- B 「スッキリ」ね。
- A とげねずみともぐらイタチの間に隠し事はいかんぜよ！
- B 「もぐらイタチ」？
- A 聞かなかったことにして……。ねえ、何？
- B しょうがないな……。実はね……。
- A 何が起きたの？
- B 私のいうこと信じる。ねえ、信じる。
- A 信じるよ。だから何なの？
- B 秘密も守れる。
- A 何があったの？
- B 誓ってよ！
- A 『誓うってよ』？ って、大げさね？
- B 誓って！！
- A はいはい、誓いますよ。戦時中に落ちた焼夷弾しょういだんにかけて誓います
……。
- B ふざけるなら、言わない！
- A ごめん。あんたの言う事は必ず信じます。で……。
- B 私ね、宇宙人見つけたの。
- A あーに？
- B 聞こえなかった。
- A 確か宇宙人って？
- B そう。まだ誰にも秘密だからね。
- A 宇宙人に遭ったわけ。
- B て、言うか、助けたの、私が……。

- A 宇宙人を助けたの？
- B ええ。
- A まあ、よくある話だわね。
- B 信じてないんでしょう。話さない！
- B 帰って！
- A 分かったわよ。ごめんなさい。お話下さい。で、何であんたが宇宙人助けたの？
- B 頼まれたんだものよ、『助けて』って。
- A 頼まれた？ 誰に？
- B だから宇宙人によ。
- A 何て？
- B 『助けて』って。
- A 宇宙人があんたに『助けて』って言ったの？
- B そうだよ。
- A 何処で？
- B ……、町はずれの、氷川様。
- A 氷川神社。
- B そう。
- A 宇宙人がお参りに来てたの？
- B 違うよ、バカだな！
- A 今、何て言った!!
- B バカって言ったのよ！
- A それで？
- B ? 一昨日雷おとしが落ちたのよ。
- A 何処へ？
- B 夕立も凄かったの。
- A だから雷が何処へ落ちたの？
- B 氷川様。

A 氷川神社。

B そう。

A すぐそばじゃない。

B そうビツクリしちゃった。バチン！ って凄い音がしたの。

A (迫力無く) ポチンって。

B ポチンじゃないわよ。バチン！ よ。

A (大迫力で) バチーン！

B でき、窓の外が真っ白になって、雨が止まって見えたの。ストップモーションみたいに、きれいだったんだから。

A 雨、止まるかな。

B 感覚よ！ もっと芸術的な思考をお持ちなさいよ。

A ゴツホ、ゴーギャン、ピカソ！

B あんた、何か拾って食べた。
A で。

Bits 8

B でね、次の日よ、だから昨日ね。昨日、神社に行ってみたのよ。そしてら、みんながね『銀杏いちじょうの木に雷は落ちた』って言ってるから。銀杏の木を見に言ったのよ。そこで見つけたの。

A 宇宙人を……。

B 凄いでしょ。

A ……ちよつとよく話が見えないんだけど。

B 何が見えないのよ？

A もう少し詳しく話してよ。

B だから、氷川様の銀杏の木、知ってるでしょ。

A あの高い木。

B そう、あれがね黒焦げになってるのよ。木の真ん中に縦にザツて穴があいちやって、半分地面に倒れてるの……消防車が来てたみたい、黄色いテープで木の周りをグルって囲ってあってね。みんな

なが近づけないようにしてんのよ。私の他にもいっぱい人が来ててね。ちよっとした事件だったわよ、ここらの。

A それで？

B 木の周りをグルと回って見てみたのよ。そしたら、『助けて』って誰かの声が聞こえたのよ。それが変な感じなのよ。言葉でね『助けて』って言われた感じじゃないの。何て言うか……。

A 言葉じゃない？

B 誰かが私に助けを求めているって感じがね。背中 of 辺りがスーって寒いような。ザワザワと言うか。

A 『ザワザワ』？

B あたしも何が何だかよく解らなくってね、周りを見回したら、また、『助けて』って。

A 言葉じゃない、そのザワザワ、スーが？

B そう、気味悪いでしょ。でも逃げる訳にもいかない気がして……その感じの強い方に歩いて行ったのよ。そしたら、地面に倒れている幹に居たのよ。

A 何が居たの？

B だから、宇宙人。凄いと思わない。

A あのさ。見物人が沢山いたんだろ。

B そうよ。

A 他の連中は気がつかなかったの？

B うん、あたしだけ。

A どうして、だって、倒れた銀杏の木に宇宙人が下敷きになって居たんだろ？

B 下敷きになってたなんて言っていないじゃない。勝手に脚色しないでよ。

A だって、『助けて』って。

B そうよ、木の幹にしがみついて私に助けを求めているわけ。

- A どうして他の人は気がつかなかったの？
- B 知らないわよ。多分ね、私を選んだのよ。
- A 選んだ？
- B うん。だって声が聞こえたわけじゃないのよ……あれはね、要するにテレパシーよ。私にね、必死で助けを求めていたのよ。
- A テレパシーで？
- B そう。
- A あんたを選んで？
- B そう。
- A 何であんたなのよ？
- B つまり、私が好みのタイプだったんじゃないの？
- A 何だい、男かいその宇宙人？
- B 男とか女とかあるのかな？
- A そして助けた？
- B うん、拾って来たの。
- A 拾って来た!?
- B そうだよ。
- A ちよつと待ってよ、『拾って来た』ってどういう事？
- B どうもこうもないでしょ。拾ったのは拾ったのよ。
- A 宇宙人で拾えるような物なの？
- B ビックリしたのよ、私も……あんなにチツチャイとは思わなかった。
- A チツチャイの？
- B うん。(指で三センチぐらいな大きさを示す)このくらい……木の幹にしがみ付いてたのを手に乗っけて持って帰って来たの。
- A 持って帰った!?
- B そうよ。
- A ここに!?

B 他に持って帰るところある？ あんたの部屋じゃ地球の印象悪くするしね。

Bits
9

A、恐れるように部屋を見渡す。

B なに？

A この楽屋に居るの？

B 居るわよ……見たい？

A (頷く)

B じゃ、持って来る。入れ物がね解らないでしょ。だから一応小鉢に入れといたの(と、部屋から出て行く)。

A 小鉢？ それどういう意味？

B、小鉢を手に現れる。

A それどういう物？

B 見たら解るわよ。これ……。

A、こわごわ小鉢の中をのぞくき、笑いだす。

B 何よ？

A これ？

B そうよ、何で笑うのよ？

A あんたさ、いい加減にしなさいよ！

B どういう意味だよ？

A 解ったわよ。お見事でした。拍手拍手。

A、手を叩く。

B 信じてないじゃない。全然信じてないでしょ。あたしの言う事信じるってさつき約束したのに。なに、拍手拍手で済ますわけ。やっぱり話すんじゃないかった。

A ちよつとツ。

B もう、あんたとは絶交だよ！

A ちよつと待ってよ。私にいったいどうしろって言うの？ 私にこ

れが宇宙人だって言って欲しいわけ……だって、あんたさ……これ、どう見たって、ナメクジだよ。

B、ふくれて小鉢を手に、椅子に座り込み黙り込む。

A、暫くBを見つめていたが、

A ねえ、いつまでふくれているのよ？ もう、勘弁してよ。あんたね、時々地球の裏側に行っちゃうのよね。

B どうせ、私は、地球の……。

A いいからさ、もう冗談はよそう。

B 冗談何て言ってない！ あなたに宇宙人見せた私がバカだったのよ。

A あのさ！

B 何よ！

A マジで言ってるの？

B マジ、マジマジマジマジ。信じないならいい！

Bits
4

A もう一回聞けど、冗談じゃないんだよね。

B 耳鼻科行きなよ。鼓膜が破けてるんじゃないの？

A 私も真面目の話しているのよ。本当にそれ宇宙人だと思ってるの？

B だから、思っているじゃないの、これが事実なの！

A だって、無理だと思わない小鉢に入れたナメクジ見せられてさ、いきなり宇宙人って言われたら、誰だって冗談だって思うでしょう。それが普通じゃないの……違うの？

B 冗談何て言ってない。あたしね、コペルニクスの気持ちちがようや
く解った。

A コペルニクス？

B 彼がね、地動説を唱えた時に誰も信じてくれなかった。

A 地動説。

B 昔わね、宇宙の真ん中に地球があって太陽は地球の周りを回って
るってみんなが信じてたのよ。それをね……。

A いやいやいや、地動説ぐらい知ってるわよ。ちよつとそれ見てみ
なよ……どう見たって、ナメクジじゃない。

B (じつと小鉢の中身を覗き) 似てるわ。

A 似てるわって、その物だろ！

B じゃ、聞きますけどあんたテレパシー使うナメクジ見た事ある？

A それはないけどさ？

B これはナメクジに似ているけどナメクジじゃないの！

A こう言っちゃなんだけど、私はこいつからテレパシー何て何も感
じないわよ。

B だって、あんたは選ばれた人間じゃないもん。

A ああ、成程ね。他の銀杏を見物に来てた連中も選んで貰えなかつ
たんだよね。

B そうよ。

A あんただけが選ばれた。

B 今んところはね。

A それで、そいつはあんたに助けられて、小鉢に入っている。

B そうよ。

A テレパシーは？

B まだ続いているよ。今だってゾクゾクしてるもん。ほら今もね、『助
けて、助けて』しきりに言い続けているの。

A 『助けて、助けて』って……今もいつてるの？

B そうよ。

A だって、あんたはそいつを助けたんでしょ。拾って帰って来た
んだから、もう助かってんでしょ。それでもまだ『助けて』って
言ってるのはどう言う訳よ。

B だから、それがよく解らないのよ。昨日からずっと考えてるんだ

けどさ。この人がいったい何を訴えてるのかなって？

A この人？

Bits
10

B うん、一つ思ったのは……この人の居た星が何かの危機に瀕^{ひん}して
いて、そして助けを求める為に地球にやって来たんじゃないかな
って。ねえ、遠く離れたどっかの惑星がさ、戦争とか環境破壊と
か天変地異とか、何かそういうもので終末を迎えているの……で、
この人はさ、その星の最高司令部とか国連みたいなものの命令を
受けて地球にやって来た訳よ、使命感に燃えてね。でも、途中で
事故に遭って氷川様に墜落しちゃったの、それであたしに助けを
求めて来たのよ。そういう事って考えられるでしょう。

A (首を傾げ) いやー。

B 考えられない。

A (左右の指を立てながら) たぶん、考えられるヤツと考えられな
いヤツが……。

B じゃ、あなたは考えられないヤツだって言いたいのか？

A ちよつと根本的なところから考えない。

B 何、根本的って。

A わたしね、どうも解らないのよ。そもそもそのところが……。

B 何が？

A あんたさ、銀杏の幹にへばりついているこいつ見た時にさ、ナメ
クジだと思わなかったの？

B どうしてよ。

A どうしてって、こう言うの見た人わさ、百人中百人がナメクジた
ど思うでしょう。『あれ、宇宙人じゃないか？』って思って掌に
乗せて持って帰って来て、小鉢に入れちゃう人なんていないと思
うよ。

B 助けを求められても？

- A そもそも、そこが変じゃない。
- B どこが変なのよ。
- A 「助けを求められたと言う」そういう感じがただけでしょ。
- B だから、「しただけ」じゃないの、今も続けているの。
- A あんたさ、どうしてそういう感じが、こいつから出ていると思うの。
- B だって、そうなんだもの、テレパシーってね、今に時代は世界中で研究されてて、実験なんかも行われてるのよ。前テレビで見たもん。
- A そういうのを研究している連中居るかもしれないけど、テレビってのはさ、そういうのを面白半分に取り上げるだけで、ああいうのって、だいたい食わせ物なの！
- B 食わせ物？
- A そう、シヨーなのよ、ミスターマリックと同じ。
- B それどういう意味？
- A ミスターマリックが本当にハンドパワー持ってるなんて思っ
てないでしょう。
- B (無言で、ジッとAを見つめる)
- A ……思ってるわけ？ あんたあれ本当だって信じているの？
- B どうしてよ。
- A あれ手品だよ。ミスターマリックがやってる事はプロの手品師だったら誰でも出来るのよ。種があるんだから。
- B ちょっと聞きたいんだけど。
- A 何よ。
- B あんたはあたしが宇宙人を助けた事を、「食わせ物」だと言いた
い訳？
- A いやいや、食わせ物だと言ったのはテレビの話しでさ、テレビで
やっている、何とか言う「特番」の話しよ。

B だって、同じ事でしょう、仕掛けがあつて誰かがあたしを引っかけようとしてるって言いたいんですよ……そんなのおかしいでしょう。いい、誰が何のためにあたしを引つかなきゃいけないの？ あたしにね、ナメクジを宇宙人だと思わせて誰が得するの？ そんなことする人居る訳ないでしょう。

A 違う、そういう事じゃないのよ。

B 違わないのよ。だってさ、テレビが食わせ物だとか、マリックがどうか、何でそういう話になるのよ。素直に言えばいいじゃないよ。わたしは宇宙人何か信じたくないって、宇宙人は存在しないって思いたい訳でしょう。

A ちよつと待つてよ。あのさ、テレビとはマリックが出て来たのはあんたが言い始めたからでしょう！ 行きがかり上そう言う話になつたつて言うだけで、わたしは宇宙人が居ないとかそういう話をしてんじゃないわよ！

B じゃ、存在すると思つていてるってこと。

A それとこれとは話の次元が違うだろ。

B だって……。

A (怒る) 今、あんたのナメクジの話してるんでしようが！

B (怒る) 全然次元が違う話だと思わないもん。だってお前が頭っから

A (怒る) 今、何て言つた!!

B (怒る) 『お前が』つて言つたんだよ。

A (怒る) それで？

B (怒る) お前が宇宙人の存在を認めてないんだとしたら、あたしがいくら説明したつて無駄でしょう！ 嫌なの、あたしそうやって人から決めつけられるのが、気分悪くなるだけだし、正しいのは自分だけなんでしょう！ あたしの言う事なんか、どうせ食わせ物のテレビから仕入れたことばかりだと思つてるんでしょ

う。

A (がつくり) ……わたしそんなこと、一言も言っていないでしょう
……どうしたのよ。

B ……(怒っている) そうめん食べる。

A はあッ!

Bits
11

「楽屋」

その時、女優D(比較的若い)がひっそり入ってくる。なぜか胸に、大きな“まくら”をしつかりと抱きかかえている。足を止め、ぐるりと楽屋を見渡すと、片隅の椅子にチョンとかける。そのまま、微動だにしくなる。

もうお分かりと思うが、女優A・Bは死人なので女優Dには姿が見えない。

女優A・B、無遠慮にじろじろ観察する。

女優A 誰?

女優B さあ、見たことのあるような顔だけど。

女優A あたしたちの知り合い?

女優B まさか。

女優A なあーに、あれ、まくらみたいなもの。

女優B、立ち上る。

女優A よしなさいよ。

女優B、構わず、女優Dに近づき、のぞく。

女優A なんだった?

女優B みたいなものじゃなくて、まくらそのもの。

女優A へえ。

この間、女優D、床の一点をみつ瞞めて微動すらしない。女優B、女優Dの真正面にしやがみこむ。

女優B あ、思いつめている。

女優A 思いつめてる？

女優B でなきや、熱でもあるのよ。まじないかしら、まくら。

女優A なんの？

女優B こう、抱いてると熱が下がる……

女優A 聞いたことがないよ、そんなの。

女優B (さらにしつこく覗き込む)

女優A ねえ、よしなさいったら。

女優B、戻りかける。

Bits
12

女優D ママ。

女優B、ギョツとして立ち止まる。

女優D (視線を床に落としたまま) ママ、あたしの手紙読んでくれた？

女優B 手紙!?

女優A・B、顔を見合う。

女優D ……手紙にも書いてあったでしょう、あたし、やっと健康になれたのよ。あたしたちの仕事って、才能も大事だけど、なんたって健康でしょう。ムーア人のことわざにもあるでしょう、よいまくらはよい眠りを確実にする……あたし、ちゃんとその通りに実行したのよ、ママ、あたしもう大丈夫……本当よ……。

女優A・B、ポカンと見ていたが、あわててメイクに戻る。

女優B ねえ。

女優A うん？

女優B あなたがママだったら、安心する？

女優A しないねえ、多分。

女優D 『わたしは行くわ、ごきげんよう。あたしが大女優になったら観にいらして頂戴ね。約束してくださいさる？ ……人も、ライオンも、鷲も、

雷鳥も、角を生やした鹿も、鷺鳥も、蜘蛛も、水に棲む無言のさか

なも、人の眼に見えなかった微生物も……つまり一切の生き物は、

悲しい循環めぐりをおえて、消え失せた……もう何千世紀というもの、地球は一つとして生き物に乗せず、あの哀れな月だけがむなしく灯りをともしている』。。。

女優 A ニーナのせりふよ。この娘こなに？

Bits 13

女優 D、女優 B に向き直り。

女優 D 座長さんプレゼントを持って来ました。あたし、もうすっかり健

康になったんです、だから。返して頂きたいんです。

女優 B あら、わたしの事が見えるのかね？

女優 A 見えるのよこの娘こ、幽霊が……あなたお座長と勘違いしてるみた

い。

女優 B (ボカンとする) 返すって、何を。

女優 D まあ、白っぽくれて。

女優 B (不安になる) 何か、あずかった？

女優 D あずかっただなんて？ 小屋主さんからもご存知ですよね。

女優 A あら、わたしも……小屋主だって。

女優 B 何かあわれだから話にのってあげようよ。はっきりおっしゃい、

いったいなにを返せっていうの？

女優 D ニーナの役です。

女優 B え？

女優 D ですから、ニーナの役を返して欲しいっていつてるんです。

女優 A あなたお名前は？

女優 D ま、意地悪な……キー子ですよ。

女優 B ねえ、キー子……あなた、自分がなにを言っているかわかっているの？

女優 D ええ、もちろん……健康になったんです。こんなに顔色がよくなっ

たでしょう。

女優 B あのね。

女優D 病院の医院長さんも退院だって。

女優A この娘、入院してたんだ。

女優D 長い間ご迷惑をかけたことはお詫びしているでしょう。

女優A この娘、まだ治ってないよ。

女優B 病院へ帰りなさい。話にならないよ。

Bits
14

女優D どうして話にならないのでしょうか。

女優B キー子……ニーナの役はねえ、はじめっから……あたしなの、
して、あんたははじめっからあたしづきのプロンプターだったの。
こんなこといっちゃなんだけど、あんたにはまだニーナの役が
くわけないでしょう。

女優D ……。

女優B どう、わかった？

女優D ……あたしがいけなかったんです。こんなチャンスに病気なん
かしちゃって……あたし、病院のベットで何通も何通も手紙を
書きました。お詫びの手紙……だって、作者に申し訳なくって。

女優A ……作者に申し訳ない？

女優D ええ、あたしのためにこんないい役を書いてくださったんですか
ら。

女優B あなた、作者が誰だかわかってるんでしょうねえ。

女優D ……もちろんですわ。

女優A 115年前に死んじゃっているのよ。

女優D それ、たんなる噂でしょう。

女優A.B (愕然) 噂!?

女優D おとといだったかしら、電話でお話したんです。

女優A.B 誰と!?

女優D チェーホフさんです。それで、電話を切る前にこうおっしゃった
んです。きみの元氣な舞台姿を見るのを楽しみにしてるって……。

女優 A
いかれてるわ。

Bits
15

女優 B
もうやめよう！

女優 D
ですからあたし、明日からでも、ニーナの役……。

女優 B
そうはいかないわ。

女優 D
（黙って、まくらを差し出す）

女優 B
どういう意味？

女優 D
（無言で押しつける）

女優 B
いらなといったでしょう。

女優 D
これ、あたしが愛用してたもんなんです。とつてもよく眠れるんです。どうぞあたしのかわりに……。

女優 B
かわりにどうしろっていうの？

女優 D
……。

女優 B
あなた……まくらとニーナの役を交換しろっていうの！

女優 D
……。

女優 B
どこからそんなキテレツな発想が出てくんのよオ！

女優 D
だって、お疲れでしょう。

女優 B
疲れてなんかいないわよ。

女優 D
いいえ、つかれてらっしゃるわ、とつても。疲労にはなんたつ

て、休養と睡眠……。

女優 B
やめてよ！ こんなもの！

女優 A
ねえ、その枕貰ってよしにしようよ。

Bits
16

女優 D、まくらを投げ捨てる。

女優 A・Bの方へ飛んでくる。

女優 D
（つぶやく）座長の為にせつかく病室を予約しておいたのに。

女優 B
え？ なんていったの？

女優 D
そりゃ個室をとりたかつたんですけど、あいにく満室で……で

も、考えようによっては、大部屋の方がいいんじゃないかと思っ
て……テレビはあるし、いろんな話し相手には困らないし……お
年寄りなんか個室より大部屋を希望される方が多いんですよ……
いつか仰つてたでしょう、マンションへ帰つても話し相手もいな
いし、ひどくさびしいって……あたし、つくづく思つたんです。
人間には孤独が一番いけないんじゃないかって。

女優 B

あなた、それであたしを救おうと考えたわけ？

女優 D

救うなんて、そんな大それた……座長さんはお歳なので……ニー
ナなんて役、とくに大変でしょう、蝶のように動きまわつて。そ
れなのに、あたしの病気からムリヤリ押しつけるようなかたちにな
つて、本当に申し訳なくつて……。

女優 B

キー子。

女優 D

はい？

女優 B

（抑えて）あなたにわかるようにするには、どういえばいいの
かしら。そりゃねえ、女優って仕事は大変よ。なにより大変なの
は、いつまでも若くはないってことよ、年々、肉体は自分を裏切
つていくし……。

女優 D

でしょう。

Bit 17

女優 B

待つてよ、あたしのいいたいことはそうじゃないのよ。つまり、
そう、つまり肉体だけがすべてじゃないってこと、ニーナの役だ
つて、ただ若けりゃいいってもんじゃないの……なんていうのか
な、蓄積が必要な、いろんな蓄積……ある意味であたなのいう
孤独だつて蓄積のひとつよ。

女優 D

まあ、孤独が蓄積ですか。

女優 B

そんなこといってないでしょう、孤独が要するに、こう……ああ、
混乱してきたわ、とにかくねえ、あたしは大変な仕事であること
は、百も承知で、女優をやつてるの、女優という職業を選んだの。

あなたが何を言おうとニーナの役は手放さないわ、これからさき、百回でも二百回でもやりつづけてやる！ ばばあになったってかまうもんか……。

女優 A　もう、ばばあじゃない。

女優 B　そう、もう五十……、（Aに）何を言わせるの！

女優 D　やっぱり疲れてらっしゃるんだわ。

女優 B　出て行って！

女優 D　……（凝つと瞞める）。

女優 B　（哀願するように）おねがい、帰って……本当に疲れてきたわ、ひとりにして。

女優 D　……（まくらを差し出す）。

女優 B　やめてったら！

女優 B、逆上して、女優 D を叩く。

女優 D、壁に頭をぶっ倒れる。

女優 A　何するのよ、乱暴はいけいわよ！

女優 B　（我に返る）キー子……。

女優 A　頭を壁にそうとうな勢いでぶつけたわよ！　大丈夫、しっかりして！

Bits 18

女優 A、女優 D を抱え起こす。

女優 D、女優 A の手を払いのけるようにして、立ち上る。

女優 B　殴る気はなかったのよ、大丈夫？

そのとたん、女優 D、ぐらつと倒れかかる。女優 A、あわてて支える。

女優 A　しっかりして。

女優 D　あたし……健康ですから。

女優 A　それはわかっているけど。

女優 D　まくら。

女優A ……(足元のまくらを拾って渡す)。

女優D、ふらふら出入り口の方へいく。

女優A どこへいくの？

女優D なんてって、つかれには眠りが一番です。

女優A キー子。

女優D、まくらを抱いて、出ていく。

女優A 行っちゃったわよ。

女優B 何が何なのよ！

女優A あの娘大丈夫かしら？

女優B 大丈夫じゃないんじゃないの？ ああグッタリだわ。

女優A ちよつと様子見て来るね。

女優B ああ。

女優A、出て行く。

女優B ああ、恐ろしい世の中……あ、わたしはこの世の中には居ないんだわ死んだだから。頭こんがらがっちゃうよ！

女優A、帰って来る。

女優B どうだった？

女優A それがね……。

Bits 19

と、女優Aの後から女優D、まくらを抱いて、姿を見せる。

そして、入口の隅にひっそり立つ。

女優Dの顔、やや蒼ざめている。

女優B ……いやだ、まだいたの？

女優A それがね。

女優D ……今晚は。

女優D、女優B、頭を下げる。

女優D 今晚は。

女優A それがね。この娘……わたしたちのお仲間……。

女優 B ええ!?

女優 A そう。幽霊さん……。さっきの、あれよ、よっぽど打ちどころが悪かったのよ、かわいそうに。

女優 D あの。

女優 B はあ。

女優 D 質問してもよろしいでしょうか。

女優 B どうぞ。

女優 D あたし、感じていました。

女優 A なにを？

女優 D あなたたちの存在を。いつも声なき声のようなものが聞こえていました、毎晩楽屋へ入ると。

女優 B 声なき声？

女優 D ええ、低くささやくような。あの……質問してもよろしいでしょうか。

女優 B どうぞ。

女優 D 長いんですか、こうしてらっしゃるのが。

女優 A こうしてらっしゃる？

女優 D つまり、楽屋通いというか。

Bits 20

女優 B あたしは最近……。こちらは古いのよ、とつても。見て、この傷、空襲の時の……。

女優 D まあ、空襲ですか、太平洋戦争当時の。

女優 A あんまりジロジロ見ないで、博物館になったような気分。

女優 D でもそれからずっと？

女優 A なにも思いつめて通ってるわけじゃないのよ、ほかに行くところもないからなんとなく。

女優 D お疲れでしょう。

女優 B え？

女優 D　　そういえば、こちら（A）よりもずっとつかれてらっしゃるみたい。
い。

女優 A　　やっぱり。

女優 B　　なにがやっぱりよ。

女優 D　　疲れにはなんたって睡眠が一番……これ、使い古しでなんですけど……（と、まくらを差し出す）。

女優 B　　（あわてて飛び退く）いいのよわよ。

間。

女優 D　　あの……もう、そろそろですか。

女優 B　　そろそろって？

女優 D　　出番です……。

女優 A・B、顔を見合わせて、黙ってしまう。

女優 D　　出しものは、なんですか？

女優 A・B、無言。

女優 D　　あの……。

女優 B　　うるさいわねえ！　ガタガタガタ、少しは黙っていたらどうなの！

間。

Bits 21

女優 D　　……やっぱり、チェーホフ、ですか？

女優 B　　チェーホフ？

女優 A　　そういえばあんた、つい最近チェーホフと電話で話したんだわねえ。
え。

女優 D　　まあ、聞いてらしたんですか。

女優 B　　ねえ、チェーホフだとしたら、なんだと思う？

女優 D　　……三人姉妹かしら。

女優 A　　二人だけでどうやって三人姉妹やんのよ。

女優 D　　二人しかいないんですか。

女優 B　　ごらんの通り、少なくともこの楽屋にはねえ。

長い間。

女優 D　　……わかつてきたわ。

女優 A　　へえ、なにが。

女優 D　　決まってるじゃないんでしょう、なにも。

女優 A・B、無言。

女優 D　　ただそうやって、毎晩、自分勝手なメイクして出番を待っているだけ、永遠にやってこない出番を待っているだけ……でしょう。

女優 A・B、無言。

女優 D　　バカバカしいと思いませんか？　あたしはこんなみじめなマネはいや、こんなだったら、まだ病院のベッドにいる方がましです。

女優 A　　ふん、だったら病院へ戻ったらどうなんだい！　その大事な事なまくらチャンと一緒に……ただし、あなたのベッドはもうないよ、あなたにはもう安らかな眠りなんてないのさ。

女優 D　　……（シヨック）ほんとに、あたしのベッドはないんでしょうか。

間。

Bits 22

女優 A　　……そのうちに、あんたも慣れるよ、こうやって待つのが。

女優 B　　そうよ、じきにあたしたちみたいになるんだから。

女優 D　　……これからあたしにも……長い夜がくるんですね。

女優 A・B、顔を見合わせる。

女優 A　　じきになれるわよ、時間のいろんな使い方は、あたしたちのやつてることを見てれば、参考になるし……。

女優 D　　でもあたし、思うんです、なにかをやるべきだって。

女優 B　　なにかはやってるのよオ！

女優 D　　あたしの言ってる意味はそうじゃないんです、なにか決めてち

やんと……なんていうか、もっとう、来たるべき日に備える
っていうか。

女優 B 来たるべき日？

女優 D ええ、なにかの拍子で、出番がやってこないとも限らないし。

女優 B ふん、はじめはそんな夢を持っていたわねえ、けど、来やしない
んだよ、そんなもの。

女優 D ……あなた、やっぱり疲れてらっしゃるんです。

女優 B よしてよ！

女優 D いいえ、きつと疲れてるんだわ。（まくらで迫る）

女優 B 畜生！ そういつて、あたしの役をとりあげようってんだろ、

なんて娘なんだろう、見境もなく人の役を狙うんだから。まく
らで迫ったって渡すもんか！ 出てけ！

女優 A ちよつと。

女優 B なによ！

女優 A あたしの役って、役なんか決まってるじゃないのよ。

女優 A ……そうか。

長い間。

Bits 23

女優 D あたしって、誤解されやすいんです。協調性と普遍性にかけるん
です。誰からも愛されないことなんです……あたしはいつだって
ひとりぼっち。

女優 B 待ちなさいよ、突然総括なんかしちゃってどうしたのよ。

女優 D （かたくなに）もういいんです、決めちゃったんです。

女優 A なにをさ。

女優 D 今後ごめいわくをかけません、ひとりで、あたしなりにやって
いきます、いつかやってくるかも知れない出番を待って……（突
然「三人姉妹」のイリーナのセリフ）……『ああ、不具合なあ
たし、……あたし働けないの、もう働くのはごめんだわ、沢山

よ、もう沢山……これまで電信係もしたし、今は市役所に勤めるけど、まわってくる仕事が片っ端から憎らしいの、バカバカしいったらありやしない』。

女優 B 電信係とか市役所って？

女優 A 三人姉妹のイリーナのセリフ。

女優 B あ、もうやってんの。

女優 D 『……ああ、あたしはもう二十四、働きに出てからもう大分になるわ、おかげで脳みそがカラカラになって、何か深い淵へでも沈んでいくような気がする……』。

女優 A ちよっと。

女優 D え？

女優 A 困るのよ、それに勝手にイリーナの役なんかとっちゃって。

女優 D とっちゃって!?

間。

Bits
24

女優 B ……これからも夜は長いのねえ。

女優 A そう……あたしたちには太陽の光がふりそそぐ熟れたような真昼はないのよ。

女優 B だったら、ちよつとばかり生活を変えてみるのも悪くないわねえ。

女優 A まあねえ、三人にもなったことだし……。

女優 A・B、どちらともなく顔を見合わせて、微笑する。

女優 A あんた、マーシャやる？

女優 B あんたはオリガ？

女優 A オリガ？ まあいいわ。久しぶりの女の役。

女優 D あ……。

女優 B そんなまくらなんて捨てなさい、あんたはイリーナ、のぞみ通りでしょ。

女優 A

待って、あわてることないわよ、時間はたっぷりあるんだから。乾杯しましょう。あたしたちの長い長い夜のために。

女優 B

あたしたちの終わりなき稽古のために。

女優 D

そして、あたしたちのもうやってこない眠りのために。

三人、一瞬ん寄り添う立つ。

女優 B

『(マーシャのセリフを言いながら酒瓶からグラスに酒を注ぎ二人に渡す) ……まあ、あの音楽のひびき ……あの人たちはたつていく。わたしたちだけがここに残って、またわたしたちの生活を始めるのだわ、生きていかなければ、 ……生きていかなければ ……』。

三人

かんぱーい！

女優 B 歌い出す。

「(G) はなやかな (A m) 町 ……。(G) まずしい (A m)

都 ……。(C) 囚とらわれの (E 7) ところ ……。

(F) あでやかなる (E 7) 姿 ……。

(A m) あでやかなる (E 7) 姿 ……。

(F) うゝ (G) うゝ (A) あゝ

完